

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-2-3
高齢者福祉の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 高齢者福祉課長 安食 治外 電話番号 0852-22-5236

事務事業の名称	新たな共助の仕組みづくり推進事業	
目的	(1) 対象	老人クラブをはじめとする地域で活動する高齢者グループや個人
	(2) 意図	地域社会の担い手として活躍するなど、活動が活性化し、新たな組織化を行う。
事業概要	①市町村老人クラブ連合会助成事業：老人クラブ等の活動を通じ、高齢者の社会参加の促進を図るため、市町村を通じて市町村老人クラブ連合会に補助。 ②老人クラブ等活動推進事業：老人クラブ活動の活性化を図るため、県老人クラブ連合会に対し、推進員設置とその活動に必要な経費を補助。 ③高齢者大学校運営事業：高齢者大学校を適切に運営し、継続的な学習の場を確保するため、県社会福祉協議会に対し、運営に係る経費を補助。 ④健康福祉祭運営事業：県健康福祉祭の開催と全国健康福祉祭への選手派遣を円滑に行うため、県社会福祉協議会に対し、県大会開催や派遣に係る経費を補助。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 県内の高齢者を対象に健康づくり活動等を展開する「健康づくり推進員」の養成数（H25年度から開始）	目標値		84.0	104.0	124.0	144.0	のべ人数
		取組目標値						
	式・定義 同上	実績値	64.0	97.0	89.0			
		達成率	-	115.5	85.6	-	-	%
2	指標名 高齢者大学校の入学者数	目標値		180.0	180.0	180.0	180.0	人
		取組目標値						
	式・定義 同上	実績値	125.0	120.0	101.0			
		達成率	-	66.7	56.2	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	81,583	76,108
うち一般財源 (千円)	50,799	48,015

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

○地域社会の中核的な高齢者グループである老人クラブの活動や、地域活動の担い手となる高齢者の育成及び高齢者スポーツ・文化活動に対する支援を行っている。
 ・県内の単位老人クラブ数 1,014クラブ（H29.10.1現在）
 ・県内の単位老人クラブ会員数 49,335人（H29.10.1現在）
 ○高齢者大学校：210人（H30年度学生数）
 ○健康福祉祭：2,362人（スポーツ）、131人（文化交流）、171人（美術展）（H29年度、スポーツはH28）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

○老人クラブ数及び会員数は減少しているが、健康づくり推進員（介護予防、閉じこもり予防や仲間づくりなどの効果が期待できる地域の高齢者に対する健康づくり活動を推進する実践者）は毎年度養成しており、年々増加している。
 ○高齢者大学校の在学学生、卒業生による地域貢献活動、同窓ネットワーク組織の活動が実施された。
 ○健康福祉祭を一つの契機として、高齢者がスポーツや文化活動、地域貢献活動に、よりいきいきと取り組む気運醸成につながった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」
 ○高齢者大学校入学生が減少し、西部健康福祉科が休科となる（今年度は西部校陶芸科も休科）など、価値観が多様化する中で、そのニーズに答えられていない
 ○高齢者数が増加しているにもかかわらず、老人クラブ数及び会員数は年々減少してきている。
 ○健康福祉祭は、県全体の健康増進を目的としているが、一部の方のみが参加するに留まり、県民全体への広がりは感じられない。また、参加者も一部の種目、部門で減少傾向にある。

②困っている状況が発生している「原因」
 ○「高齢者大学校」については、高齢者の価値観やライフスタイルが多様化してきており、また、寿命の延伸とともに高齢者の体力的年齢は若くなり就業意欲も高い中、講義内容を含めその意義、役割等の見直しが必要ではないか。
 ○「老人クラブ」についても、魅力的な活動内容や加入メリットが提示できていないと思われるが、市町村老人クラブ、単位老人クラブの活動内容の詳細が把握できていない。
 ○「健康福祉祭」についても、ごく一部の熱心な方が参加するイベントとなっており、必要な情報発信ができていない。

③原因を解消するための「課題」
 年齢で一律に「高齢者」と見ることなく「エイジレス社会」に向けた取り組みが求められる中で「高齢者大学校」そのものの意義・役割を改めて整理する必要がある。その上で、多様化するニーズに対応し、とりわけ、多くの業種で人材不足が叫ばれ、高齢者も、その担い手としての期待が大きくなっており、そうした要請に相当程度応える内容に変えていく必要がある。「老人クラブ」も、現状をしっかりと把握したうえで、市町村等と十分に協議し、時代の要請に応えるものに変えていく必要がある。「健康福祉祭」についても、多くの高齢者が目標とし、ひいては県民全体の健康増進につながるよう、広報等も見直し、波及効果を高める取組が必要である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

○高齢者大学校のあり方については、事業実施主体である県社協に、外部有識者等も加えた「見直し検討会」を設置し、社会教育や雇用の視点も取り入れ、県庁内も部局の垣根を越えて検討を進め、エイジレス社会にふさわしい、真の地域のリーダーを育成する場となるよう抜本的に見直す。
 ○「老人クラブ」については、活動内容をしっかりと調査し、名称も含めて検討し、健康づくり推進員等の地域の人材養成が活性化するように見直す。
 ○県「健康福祉祭」については、県民全体の健康づくりにつながるよう、関係団体の意向を確認しながら、参加種目などについて見直すとともに、全国「健康福祉祭」もより多くの高齢者の励みになるよう広報等の取組を強化していく。